
執着心

空暗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

執着心

【Nコード】

N4860F

【作者名】

空暗

【あらすじ】

独りで生きたいと願う性同一障害で対人恐怖症なリストカッター女と、多分世界で一番孤独な心を持つ男の恋愛。

ブローグ

ずっと一人で生きていたつもりだったのに

いつの間にか彼がいた

自分一人だったら、独りぼちな悲しさに身を震わせるだけでいいけれど誰かがいたら、いっぱい考えてしまつことがあるからだから僕は一人になったのに

なんで貴方は消えてくれないんだ

なんで貴方は僕に近づくの？

なんで貴方は

神隠しと雨

雨が降っていた

この時空の歪みを固めた様な世界では、色々なことが突然起きる

黒い着物を利き手で握りしめた

その部分だけ皺ができる

水分を吸った着物だけに、ペツタリと自分の手に張り付く

後五メートル先には、安全な都市が広がっている

けれど、今僕は危険な戦国時代に居る

後数メートル先は、安全なのに

ここは危ない場所

時空と時空が固まって、世界ができてしまったこの世界は

色々なものと、色々なことが突然起こる

今は雨が降っている

今は時空が曖昧になっている

今は安全区域には行けない

全て神様の気紛れ

何処で生きるかなんて、自分で決めろってことで

何処で死ぬのかは、神様が決める

絶対的なその秩序

きつと壊すのは不可能

安全と危険と普通が存在するこの世界

神様の気まぐれで、簡単に自分たちは死ぬ

時々神様は生き方にさえ手を出す

ザー

灰色の空から、また誰かの涙が零れた

「ただいま」

鉄製のドアを開ける

途端に肉じやがの臭いが嗅覚を刺激する

「お帰り、またNO・0に神隠しされたの？」

母が言う

「うん、今日は雨だった」

僕は答える

「タオル持ってくるね」

母は洗面所へ行った

僕は玄関のコンクリートの床に、雨の滴を垂らし待っていた
パタパタとスリッパが空気を切り、床を蹴る音がする
音は次第に大きくなる

「はい、替えの洋服持ってきたから。悪いけどそこで着替えて」

「えー」

「仕方ないでしょ、玄関しか外じゃないんだから」

玄関を越えたら、もう此処はこの世界だから
入ってくるな

「はい」

大きなバスタオルで頭を拭いてから、着物を脱ぎながら体を拭く
どうせ下は家では濡れてない洋服だから、別に替えの服を持つてく
る必要はなかったのに
そう思いながら、ああ、やっぱり文字化け直すのは金かかるんだと

納得する

つまり着物は脱げということだ

まだ濡れている全身を一瞥した後、僕は裸足で家に入る
するとある場所を境に水は消える

振り返ると、少しだけ空間に文字化けがあつた

多分僕の服にもあるだろう

僕は更衣室に行き、服を着替えた

そして今まで着ていた服を水に浸し、その水にウィー（ウイルス排除ソフト粉版）を一つまみ入れる

そしてそのまま台所へ移動する

「ちゃんとウィー入れた？」

「うん」

そこまでいうと、母は黙って、浮かない顔で僕を見る

「最近、あそこへの神隠しが多いわね」

前まではNO.2やこの世界の何処かという方が多かったのに
ブツブツと呟く

「けど今日はこっちの空間の近くの場所に行ったから、結構楽しかった」

そう一応気休めを言うと、雨だったんだからどうせ封鎖してたんでしょとピシャリと言われた
その通りだ、封鎖していた

「雨が止まなかったら、ナオ、0で一晩過ごすことになったのよ」
やっぱり危なかったじゃない

知らないよ、そんなこと
神隠しだもん、僕の意志なんて関係ないよ
ただの神様の気まぐれだもん

僕には関係ないよ

さっきまで僕のいた場所には、まだ0の雨が残っていた
どうせ一斉消去の時に消えてしまっただろうけど
けれど

まだ消えないで

世界と神様

夕食を食べ、暫くテレビを見てから二階の自分の部屋へ戻った
机の上には、黒くなった消しゴムのカスとシャープペンがあつた
引き出しを開けて、中にしまつておいた愛用のナイフを取り出す
そして暖かい洋服に包まれた腕を空気に出した

ヒンヤリとした鉄の温度が伝わる

ゾクゾクと、腹の奥が少し煮立つ

何個もある意気地無しの証拠が、鼓膜に焼き付く

グツとナイフを持つ手に力を籠めて、静かに動かす

最初はブチっという皮の切れる音がした

その後に、肉が裂ける感覚と、小さな音がする

痛いのと、気持ち悪いのと、悲しいのと、色々あつて我慢できなく

なったら、ナイフを離す

そして作つた傷を見る

大体2センチの深さ、血は結構出そう

フム、また深くなった

暫く出てくるその血で遊んでから、僕はまた傷を服の下に隠して、
ベットに寝転がった

自然と、頭が世界のコトに結びつく

NO・0 〓 危険区域で戦国時代の様な場所

NO・1 〓 現代、中間

NO・2 〓 未来

神様が決めた秩序

三つの世界があるこの世界

生まれた場所が帰る場所

神隠しでは何処の世界にもいける

それぞれは近いだけで別々

僕が生まれはこの世界は、世界評価の基準の世界

最も危険と安全の混ざり合った世界で、NO・1、別名では中間や現代とも言われる

この世界は常に動いていた

現代の通った道を辿る0と、未来に通った道を辿る1と、何処かへ進む2

どうせなら僕も、未来の世界に生まれたかった

神隠しがなくて、世界の内の他の二つの存在を無視した世界
発達しすぎた人類の世界

新しい場所を開けて

どうなるか分からない危険な世界

そういえば、最近3の空間破壊は尋常じゃない

上に行ったから、今度は下に落ちるのかな？

「本当に、ゲームみたいな世界」

ボソツと呟いた自分の声が、誰かの耳に拾われているようだった

神様？

ねえ神様、この世界ってゲームなの？
あなたの作ったゲームなの？

僕は、どんな役なの？

ねえ、神様

全身に文字化けが出る
もう何回も経験したこの感覚
足下が消えて、自分の存在も消える
温度も空気も何もない世界に行く

ねえ神様、今度は何処につれてってくれるの？

腕を伝う血の感触が、もう無くなっていて

ポタリと指の先をぬらして落ちた赤い滴が、僕の部屋に残された

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4860f/>

執着心

2010年10月12日02時46分発行